

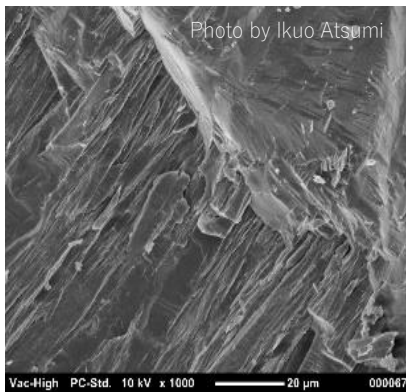
シャコガイ核が使用されたクロチョウ養殖真珠



(写真1) クロチョウ養殖真珠の表面に見られる亀裂



(写真2) クロチョウ養殖真珠の切断面



(写真3) シャコガイの交差板構造 電子顕微鏡 (1000倍)

クロチョウ養殖真珠にドリルで孔開けをしたら孔口から真珠層表面に亀裂(写真1)が入ってしまった。孔開けの際に真珠層表面に亀裂が入る可能性として内部の核が真珠層より固い場合に起こる。核が淡水産のドブ貝であると、核と真珠層の固さはほぼ同じであり、このように孔開けの際に真珠層に亀裂は入らない。珠を切断して内部の核が何であるか観察を行った。切断面を電子顕微鏡で拡大検査すると交差板構造(写真3)が確認された。また切断面の核部にたいして蛍光X線元素分析を行った。その結果、Sr(ストロンチウム)の含有比から海水産の貝殻(ドブ貝核は淡水産)であることがわかった。これらを総合的に判断すると、ここで使用されている核は海水産のシャコガイの貝殻を研磨したものである。現在シャコガイはワシントン条約の帰属書Ⅱに掲載され国際的な商取引が制約されている。このような核はミシシッピ産のドブガイ核に比べ安価なことから、極僅かであるが気づかずに流通している場合がある。

写真撮影 文：渥美郁男